

PCMCIA ファイルシステム互換性マトリックス およびファイルシステム情報

目次

[概要](#)

[はじめに](#)

[表記法](#)

[前提条件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[PCMCIA ファイルシステム互換性マトリックス](#)

[PCMCIA ファイルシステムの操作](#)

[クラスファイルシステム](#)

[出力例](#)

[クラス B ファイルシステム](#)

[クラス C ファイルシステム](#)

[関連情報](#)

概要

この文書では、PCMCIA ファイルシステムの互換性マトリクス、使用可能な各種のファイルシステム、およびそれらのファイルシステムの使用方法について説明します。

このリストは、さまざまなプラットフォーム間の PCMCIA フラッシュカードのファイルシステム互換性を示したものです。異なるプラットフォームの別のルータあるいはスイッチ（ターゲット）に使用するソフトウェアイメージを、ルータまたはスイッチ（ソース）上にソフトウェアイメージをロードするときに、参照してください。

次の表は、各種のシスコハードウェアプラットフォームが属するファイルシステムを分類したものです。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。

注: PCMCIA フラッシュカード上にある Cisco IOS(R) ソフトウェアファイルからルータまたはスイッチをブートするためには、ターゲットプラットフォーム上で、フラッシュカードをフォーマットしなければなりません。ソースプラットフォームでフォーマットされている PCMCIA カードを使用する場合によってははたらくかもしれないです; ただしファイルシステムが互換性がある、ターゲットルータのブートストラップバージョンがフォーマット済みカードをサポートしないいくつかの状況があります。したがって、あらゆる状況でこのページに示したファイルシステムの互換性を保証する訳ではありません。

[はじめに](#)

[表記法](#)

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

前提条件

このドキュメントに関する固有の要件はありません。

使用するコンポーネント

このドキュメントは、特定のソフトウェアやハードウェアのバージョンに限定されるものではありません。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。対象のネットワークが実稼働中である場合には、どのような作業についても、その潜在的な影響について確実に理解しておく必要があります。

PCMCIA ファイルシステム互換性マトリックス

ファイルシステム クラス「A」
<ul style="list-style-type: none">• LightStream 1010 および Catalyst 5000/5500 のための ATM スイッチ/プロセッサ• LightStream 1010 のための Multiservice Switch Route Processor• Catalyst 5000/5500 Route スイッチ Module (RSM)• Catalyst 8500 Switch Route Processor (SRP; スイッチ ルート プロセッサ)• Cisco 6400 ユニバーサル アクセス コンセントレータ• Cisco 7000 Route Switch Processor (RSP; ルート スイッチ プロセッサ)• Cisco 7500 シリーズ Route スイッチ プロセッサ (RSP 2、RSP 4、8) RSP• Cisco 12000 シリーズ インターネット ルータ
ファイルシステム クラス「B」
<ul style="list-style-type: none">• Cisco 1000 シリーズ ルータ• Cisco 1600 シリーズ ルータ¹• Cisco 3600 シリーズ ルータ²
ファイルシステム クラス「C」
<ul style="list-style-type: none">• AS5800 Dial Shelf Controller• Catalyst 5000/5500 Supervisor III モジュール• Catalyst 6000/6500 Supervisor Engine I• Catalyst 6000/6500 Supervisor Engine II• Cisco 7000 ルート プロセッサ• Cisco 7100 シリーズ ルータ• Cisco uBR7100 シリーズ ルータ• Cisco 7200 シリーズ ネットワーク処理エンジン

- Cisco uBR7200 シリーズ ルータ
- Cisco 7200VXR シリーズ ネットワーク サービス エンジン 1
- Cisco 7600 シリーズ インターネット Routersv
- Cisco 10000 シリーズ ルータ (ESR)
- Cisco uBR10000 シリーズ ルータ

フラッシュメモリが含まれている¹に 1600 シリーズ ルータ 単一 PC カードがあります。1601 ~ 1604 は、フラッシュから稼働されます。ルータの稼働中に PC カードを取り外すと、ルータが停止します。1601R ~ 1605R は、RAM から稼働されます。PC カードを取除く場合、ルータは次のブートアップの間に Cisco IOS ソフトウェアイメージをロードしません。1600 シリーズでは、別の配分になければ動作イメージ ファイルか他のどのファイルも削除できません。

²は 3600 従来クラス B ファイルシステムを使用しますが、Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2(4)T の crashinfo ファイル サポートの付加と、3600 は個々のファイルを削除する機能を必要とします。その結果、Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2T およびそれ以降の 3600 シリーズ ルータはクラス B ファイルシステムからのコマンド、またクラス C ファイルシステムからのコマンドを利用します。Cisco IOS Software Release 12.2T との 3600 のクラス C ファイルシステム コマンドを起動するために、最初に完全にフラッシュ ファイルシステムからすべてのファイルを取除く **erase** コマンドを使用する必要があります。これでフラッシュが空になったら、**squeeze** コマンドを実行し、スクイーズ ログを作成します。この時点で、3600 フラッシュシステムはクラス C ファイルシステムのような **delete** および **squeeze** コマンドを使用します。

PCMCIA ファイルシステムの操作

フラッシュディスクは合致する、PC カード (以前の PCMCIA) 規格にシステムに AT Attachment (ATA) インターフェイスを示しフラッシュメモリに基づいたデバイスです。このインターフェイスは、「ANSI ATA Interface Document X3T13.1153 D Rev. 9」の仕様に準拠しています。

このフラッシュディスクには、ハードディスクのエミュレートが可能にし、不良ブロックを自動的にマップして自動ブロック消去を実行するコントローラ回路があるため、リニアフラッシュメモリより柔軟性があります。更に、フラッシュディスクは非連続セクターを割り当てるために **squeeze** コマンドの必要性を省く機能を提供します (以前に リニアフラッシュメモリメモリカードと必要な)。

ルータのメインボードに直接取り付けられたフラッシュメモリモジュールとは異なり、複数の PCMCIA フラッシュデバイスをメモリの 1 つの連続ブロックに結合することはできません。従って大きいファイルを PCMCIA フラッシュするにロードするとき、そのようなファイルが複数のデバイスを渡って及ぶことができないことに注意することは重要です。

システムコンフィギュレーションファイル、Cisco IOS ソフトウェアイメージ、および他のタイプのシステム関連ファイルを格納するために、フラッシュディスクのフラッシュベースメモリ領域は、48 MB から 128 MB に拡張されました。

フラッシュメモリ ATA ディスクおよびフラッシュメモリカードは同じようなコマンドを使用します。プライマリ構文変更はその `disk0` です: または `disk1:` が使用され、フラッシュメモリ ATA ディスクを、間、`s1ot0:`参照します または `disk1:` フラッシュメモリカードを参照します。通常、構文 `s1ot0:`使用して下さい フラッシュメモリカード 20 MB よりより少し、および使用 `disk0` のため: 20 MB より大きいフラッシュディスクのため。 `s1ot0:`使用する 32 MB リニア PCMCIAフラッシュカードがあることに留意して下さい。

ルータで使用されているフラッシュカードを確認するには、show version コマンドを使用して出力の下部を参照してください。

```
7200# show version IOS (tm) 7200 Software (C7200-JS-M), Version 12.0(22), RELEASE SOFTWARE (fc1)
Copyright (c) 1986-2002 by cisco Systems, Inc. Compiled Mon 01-Apr-02 19:44 by srani Image text-
base: 0x60008900, data-base: 0x610E0000 ROM: System Bootstrap, Version 12.1(20000914:181332)
[bwhatley-npe200 102], DEVELOPMENT SOFTWARE BOOTFLASH: 7200 Software (C7200-BOOT-M), Version
12.0(5), RELEASE SOFTWARE (fc1) cisco 7206 (NPE150) processor with 43008K/6144K bytes of memory.
R4700 processor, Implementation 33, Revision 1.0 (512KB Level 2 Cache) Last reset from power-on
Bridging software. X.25 software, Version 3.0.0. SuperLAT software (copyright 1990 by Meridian
Technology Corp). TN3270 Emulation software. 1 FastEthernet/IEEE 802.3 interface(s) 125K bytes
of non-volatile configuration memory. 1024K bytes of packet SRAM memory. 46976K bytes of ATA
PCMCIA card at slot 0 (Sector size 512 bytes). !-- This indicates an ATA PCMCIA flash disk
20480K bytes of Flash PCMCIA card at slot 1 (Sector size 128K). !-- This indicates a Linear
PCMCIA flash card 4096K bytes of Flash internal SIMM (Sector size 256K). Configuration register
is 0x2102
```

show file system コマンドはまたルータによってサポートされるファイルシステムを表示する。

```
Router-3725# show file system
File Systems:
```

Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
-	-	opaque	rw	archive:
-	-	opaque	rw	system:
57336	51389	nvrAm	rw	nvrAm:
-	-	opaque	rw	null:
-	-	network	rw	tftp:
-	-	opaque	ro	xmodem:
-	-	opaque	ro	ymodem:
* 63881216	22765568	disk	rw	flash:#

31932416 31932416 disk rw slot0:# - - opaque wo syslog: - - network rw rcp: - - network rw pram:
- - network rw ftp: - - network rw http: - - network rw scp: - - opaque ro tar: - - network rw
https: - - opaque ro cns: Router-7204# show file system
File Systems:

Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
-	-	opaque	rw	system:
-	-	opaque	rw	null:
-	-	network	rw	tftp:
129016	124443	nvrAm	rw	nvrAm:
-	-	disk	rw	disk0:
-	-	disk	rw	disk1:

*** 20578304 2088580 flash rw slot0: flash:** - - flash rw slot1: 3407872 1307684 flash rw
bootflash: - - network rw rcp: - - network rw pram: - - network rw ftp: Router-7206VXR#show file
system
File Systems:

Size(b)	Free(b)	Type	Flags	Prefixes
-	-	opaque	rw	archive:
-	-	opaque	rw	system:
-	-	opaque	rw	null:
-	-	network	rw	tftp:
129016	126237	nvrAm	rw	nvrAm:
-	-	opaque	wo	syslog:

*** 128135168 50855936 disk rw disk0:#** - - disk rw disk1: - - flash rw slot0: flash: - - flash rw
slot1: 3407873 1 flash rw bootflash: - - network rw rcp: - - network rw pram: - - network rw
http: - - network rw ftp: - - opaque ro cns:

クラスファイルシステム

前述の[ファイルシステムクラスAの表](#)は、各種の Cisco ハードウェア プラットフォームで採用されているファイルシステムを示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされて

いるプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルの消去、削除、および回復に使用される方法は、ファイルシステムのクラスによって異なります。クラス A ファイルシステムは次のファイル管理コマンドをサポートします:

- delete - ファイルに削除「マーク」が付けられますが、ファイルは引き続きフラッシュメモリのスペースを占有しています。undelete コマンドを使用すると、後でそれらのファイルを回復できます。
- squeeze - 「削除」マークまたは「エラー」マークが付いたすべてのファイルを、指定したフラッシュメモリデバイスから完全に削除します。それらのファイルは、回復できません。PCMCIA カード上のフラッシュメモリ領域の大部分を消去して書き換える必要がある場合は、スクイーズ処理に数分かかる場合があります。
- format - フラッシュデバイス上のすべてのファイルを消去し、そのプラットフォームでできるようにフラッシュデバイスの準備を行います。
- verify - フラッシュメモリ内のファイルのチェックサムを再計算して検証します。ファイルがフラッシュデバイスに正しく書かれていたことを仮定します。それがデバイスに最初に書かれていたときにファイルが破損していたら、verify コマンドは決してエラーにフラグを付けません。verify コマンドは、PCMCIA フラッシュカードだけで有効です。これは、チェックサムをファイルに格納する機能がそれらのカードにあるためです。ATA フラッシュディスクにはチェックサムを格納する機能がないため、従来 verify コマンドはサポートされていませんでした。ただし、Cisco IOS ソフトウェア バージョン 12.2T およびそれ以降で、verify コマンドは MD5 オプションとアップデートされました従って比較することは現在可能性のあるリストされているものと [ソフトウェアダウンロードエリア \(登録ユーザのみ\)](#) に ATA フラッシュディスクで保存されるイメージの MD5 ハッシュを得、そのハッシュをです。

注: このドキュメントに記載されているトラブルシューティング ツールを使用するには、[登録ユーザ](#)であり、ログインしている必要があります。

出力例

下記の出力例では Cisco IOS ソフトウェア ファイル名は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前にフラッシュメモリのファイルのリストを表示するのに `ディレクトリ{device:}` コマンドを使用して下さい。また、`提示{device:}` コマンドは PCMCIA フラッシュカードに利用でき、が削除されるとしてマークされるファイルを表示しますそれはまだ絞られていません。

- delete - ファイルに削除「マーク」が付けられますが、ファイルは引き続きフラッシュメモリのスペースを占有しています。フラッシュメモリカードで `ディレクトリ{device:}` コマンドか `提示{device:}` コマンドのことで使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余地が十分ない場合、十分な領域を作るためにいくつかのファイルを削除し、**絞って下さい**。
C7513#delete slot0:rsp-jsv-mz.112-26.bin Delete filename [rsp-jsv-mz.112-26.bin]? y Delete slot0:rsp-jsv-mz.112-26.bin? [confirm]y
- undelete - クラス A フラッシュシステムで、「削除」マークが付いたファイルを回復します。クラス A フラッシュファイルシステムに関しては、ファイルを削除するとき、Cisco IOS ソフトウェアは削除されるようにファイルを単に示しますが、リニア PCMCIA フラッシュカードのファイルを削除しません。ファイルがリニア PCMCIA フラッシュカード上にある限り、このコマンドにより指定したフラッシュメモリデバイス上の「削除された」ファイルを回復できます。 `提示{device:}` コマンドの出力でリストされているようにインデックスによってファイルをリストアして下さい。C7513#undelete 1 slot0: この例では、1 のインデックス

のファイルは slot0 からリストアされます。インデックス番号は次を見られるように提示 {device;} コマンドの出力から得られました。最初のフィールド (-#-) がインデックスフィールドです。C7513#show slot0: -#- ED --type-- --crc--- -seek-- nlen -length- ----- date/time----- name 1 .D image 9CAA2A55 83C50C 19 8504460 Jan 13 2000 20:03:02 rsp-pv-mz.120-10.S5 7879412 bytes available (8504588 bytes used)

- squeeze - PCMCIA フラッシュ カード上のクラス A フラッシュ ファイル システムをスクイーズすることにより、フラッシュ ファイルを完全に削除します。このコマンドは、ATA PCMCIA フラッシュ ディスクには使用されません。フラッシュ メモリがいっぱいの場合、ファイルを再配置すると、「削除」マークが付けられたファイルにより使用されていた領域を再利用できます。squeeze コマンドを発行すると、ルータにより、有効なすべてのファイルがフラッシュ メモリの先頭にコピーされ、「削除」または「エラー」マークが付いているすべてのファイルが消去されます。この時点で、「deleted」ファイルを回復、再利用されたフラッシュ メモリスペースに書くことができます。注: squeeze コマンドは、Cisco IOS ソフトウェア リリース 11.1 以降で使用できます。Cisco IOS ソフトウェア リリースが 11.1 より早い場合、全体のフラッシュするをルータに先にあった format コマンドを使用して削除し、次にイメージをコピーする必要があります。C7513#squeeze slot0: All deleted files will be removed. Continue? [confirm] Squeeze operation may take a while. Continue? [confirm] Squeezing... Squeeze of slot0 complete
- format - クラス A フラッシュ ファイル システムをフォーマットします。場合によっては、新しい PCMCIA フラッシュ メモリカードを挿入し、それにイメージがバックアップ コンフィギュレーション ファイルをロードする必要があるかもしれません。新しいフラッシュ メモリ カードを使用する前には、フォーマットする必要があります。プラットフォームがリア PCMCIA フラッシュカードから起動できることを確かめるために疑わしいプラットフォームでそれをフォーマットする必要があります; ただし、ATA フラッシュディスクから起動する機能は頻りにプラットフォームに依存した時です。C7513#format slot0: Format operation may take a while. Continue? [confirm] Format operation will destroy all data in "slot0:". Continue? [confirm] Formatting sector 160..... Format of slot0: complete

クラス B ファイルシステム

前述の[ファイル システム クラス B の表](#)は、各種の Cisco ハードウェア プラットフォームで採用されているファイル システムを示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルの消去、分割、削除、および回復に使用される方法は、ファイル システムのクラスによって異なります。クラス B ファイルシステムは次のファイル管理コマンドをサポートします:

- delete - ファイルに削除「マーク」が付けられますが、ファイルは引き続きフラッシュ メモリのスペースを占有しています。
- erase - フラッシュ デバイス上のすべてのファイルを消去します。
- partition - フラッシュ メモリを、クラス B ファイル システム プラットフォーム上でパーティションに分割します。分割を元に戻して、フラッシュ メモリを 1 つのパーティションに復元するには、このコマンドの no 形式を使用します。

出力例では、Cisco IOS ソフトウェア ファイル名は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前にフラッシュ メモリのファイルのリストを表示するのにディレクトリ {device;} コマンドか提示 {device;} コマンドを使用して下さい。

- 削除されるように「マーク」ファイルを削除して下さい、しかしファイルはまだフラッシュ メモリの領域を占めます。フラッシュ メモリカードでディレクトリ {device;} コマンドのこと

を使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余りが十分ない場合、領域を回復するためにフラッシュを削除して下さい。削除されたファイルを回復する唯一の方法は、フラッシュを消去して、Trivial File Transfer Protocol (TFTP; トリビアル ファイル転送プロトコル) または File Transfer Protocol (FTP; ファイル転送プロトコル) サーバからもう一度ファイルをダウンロードする方法です。

```
3640#delete slot1:c3640-i-mz.113-11c.bin Delete filename [c3640-i-mz.113-11c.bin]? y Delete slot1:c3640-i-mz.113-11c.bin? [confirm]y
```

注 : delete コマンドを使用してファイルを削除した後に、クラス B フラッシュ ファイル システムの領域を開放するには、erase コマンドを使用する必要があります。注記 : erase コマンドはフラッシュ ファイルシステムのファイルすべてを削除します。

- **消去**-このコマンドはフラッシュ ファイルシステムのファイルすべてを削除します; ファイルシステムのファイルのどれも回復 することができません。次の例は、3640 ルータでの erase コマンドを示しています。erase コマンドは、slot1 のファイルを消去するために使用されています。3640#**erase slot1:** Erasing the slot1 filesystem will remove all files! Continue? [confirm]y Erasing device... eee ...erased Erase of slot1 complete
- **partition** - フラッシュ メモリを、クラス B ファイル システム プラットフォーム上でパーティションに分割するには、partition グローバル コンフィギュレーション コマンドを使用します。分割を元に戻して、フラッシュ メモリを 1 つのパーティションに復元するには、このコマンドの no 形式を使用します。注: partition コマンドを使用する前に、特定のフラッシュ メモリを消す必要があります。

Cisco 1600 シリーズのためおよび Cisco 3600 シリーズ:

パーティション フラッシュ ファイルシステム: [数のパーティション][パーティション サイズ]

no partition flash-filesystem:

他のすべてのクラス B プラットフォーム:

パーティション フラッシュパーティション [size1 size2]

no partition flash

次の例は 3 つのパーティションに slot0 のフラッシュ メモリカードを分けたものです: Cisco 3600 の 28 MB および 14 MB:

```
3640# configure terminal Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
3640(config)# partition slot0: 3 8 8 4
```

show slot0 コマンドを使用して、パーティションを確認します。3 つのパーティションがあることが下記の例からわかります: 8 MB との 2 および 4 MB との 1。パーティションが作成されると、最初のパーティションには Cisco IOS ソフトウェア イメージがロードされます。

```
3640#show slot0: PCMCIA Slot0 flash directory, partition 1: File Length Name/status 1 2779832
c3640-i-mz.113-11c.bin [2779896 bytes used, 5608712 available, 8388608 total] 8192K bytes of
processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write) PCMCIA Slot0 flash directory, partition 2: No
files in PCMCIA Slot0 flash [0 bytes used, 8388608 available, 8388608 total] 8192K bytes of
processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write) PCMCIA Slot0 flash directory, partition 3: No
files in PCMCIA Slot0 flash [0 bytes used, 3932160 available, 3932160 total] 4096K bytes of
processor board PCMCIA Slot0 flash (Read/Write)
```

このパーティションを削除するには、no partition コマンドを使用します。

```
3640# configure terminal 3640(config)#no partition flash 3 8 8 4 3640(config)#
```

クラス C ファイルシステム

前述の[ファイルシステム クラス C の表](#)は、各種の Cisco ハードウェア プラットフォームで採用されているファイルシステムを示しています。ファイルシステムの同一のクラスにリストされているプラットフォームは、同一のファイルシステム構造を持ちます。ファイルの消去、削除、および回復に使用される方法は、ファイルシステムのクラスによって異なります。クラス C ファイルシステムは次のファイル管理コマンドをサポートします:

- delete - ファイルに削除「マーク」が付けられますが、ファイルは引き続きフラッシュメモリのスペースを占有しています。 [undelete コマンドを使用すると、後でそれらのファイルを回復できます。](#)
- **圧搾**は特定のフラッシュメモリデバイスからファイルによってマークされる "deleted" か "error" すべてを永久削除にします。それらのファイルは、回復できません。PCMCIA カード上のフラッシュメモリ領域の大部分を消去して書き換える必要がある場合は、スクイーズ処理に数分かかる場合があります。
- format - フラッシュ デバイス上のすべてのファイルを消去します。
- mkdir - クラス C フラッシュ ファイル システムで新しいディレクトリを作成します。
- rmdir - クラス C フラッシュ ファイル システムの既存のディレクトリを削除します。
- rename - クラス C フラッシュ ファイル システムのファイルの名前を変更します。

出力例

下記の出力例では Cisco IOS ソフトウェア ファイル名は使用されるプラットフォームの種類によって変わるかもしれません。

注: 下記のコマンドを使用する前に `ディレクトリ{device:}` コマンドを使用するか、またはフラッシュ ファイルシステムのファイルのリストを表示するために `{device:}` コマンドを示して下さい。

- 削除されるように「マーク」ファイルを削除して下さい、しかしファイルはまだフラッシュメモリの領域を占めます。フラッシュメモリカードで `ディレクトリ{device:}` コマンドのこをを使用によって十分な領域があることを確認して下さい。余地が十分ない場合、十分な領域を作るためにいくつかのファイルを削除し、絞って下さい。

```
7206#delete slot1: Delete filename []? c7200-js-mz.120-22.bin Delete slot1:c7200-js-mz.120-22.bin? [confirm]y 上記のファイルを削除した後 squeeze コマンドを使用してファイルシステムを絞ることができます。7206#squeeze slot1: All deleted files will be removed. Continue? [confirm]y Squeeze operation may take a while. Continue? [confirm]y Squeeze of slot1 complete
```

注: squeeze コマンドは、Cisco IOS ソフトウェア リリース 11.1 以降で使用できます。Cisco IOS ソフトウェア リリースが 11.1 より早い場合、全体のフラッシュするをルータに前にあった format コマンドを使用して削除し、次にイメージをコピーする必要があります。
- **形式-クラス C フラッシュ ファイルシステムをフォーマットするため。** 場合によっては、新しい PCMCIA フラッシュメモリカードを挿入し、それにイメージかバックアップコンフィギュレーションファイルをロードする必要があるかもしれません。新しいフラッシュメモリカードを使用する前には、フォーマットする必要があります。**例 1: フラッシュディスクの使用**

```
7206#format disk0: Format operation may take a while. Continue? [confirm]y Format operation will destroy all data in "disk0:". Continue? [confirm]y Format: Drive communication & 1st Sector Write OK... Writing Monlib sectors..... Monlib write complete Format: All system sectors written. OK... Format: Total sectors in formatted partition: 93792 Format: Total bytes in formatted partition: 48021504 Format: Operation completed successfully.
```



```
Format of disk0: complete 7206# 例 2：リニアフラッシュカードを使用7206#format slot1:  
Format operation may take a while. Continue? [confirm]y Format operation will destroy all  
data in "slot1:". Continue? [confirm]y Enter volume ID (up to 64 chars)[default slot1]:  
Formatting sector 1 Format of slot1 complete 7206#
```

関連情報

- [Cisco IOS ファイルシステムの使用](#)
- [Cisco IOS ソフトウェア リリースの選択方法](#)
- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)